一般質問の要旨

小中一貫教育について

佐藤　真

問　小中一貫校で児童から生徒への成長を実感させるための方策は。

答　中1ギャップ解消のために、一例として小1から小4までをひとまとまりとして、4年生でリーダー性を育む。小5から中1にかけて教科担任制を取り入れ、様々な人間関係を構築して社会性を育成する。

問　小5から中1の中だるみを防ぐ支援や指導は。

答　授業や学校行事を様々な学年の組み合わせで行い、それぞれの学年が活躍できる場を意図的に設定し、目標を持った生活を送れるようにする。

問　少人数指導充実のための方策は。

答　算数以外にも少人数指導が可能になると考えている。小学校教員が中学校の少人数指導をすることも含めて研究する。

問　児童と生徒の交流を活発にするための方策は。

答　学校行事や学習会などで、参加する学年を変えた縦割り活動を行い、小学生が中心となる活動も設定する。地域の特色を生かした工夫も、保護者や地域の方と意見交換しながら進める。

問　児童生徒に関わる教員を増やすための方策は。

答　小中の教員がまたがって指導する縦割り活動を行う。小中合同の生徒指導部会や教育相談部会などで情報を共有化し、一人一人に寄り添った指導、支援をする必要がある。

問　教職員の負担の増減は。

答　少人数指導の時間を増やすと担当時間が増えるが、担当教職員が増える合同の学校行事を行うことで、負担軽減を工夫できる。また、分離型での教員の移動時間を授業時間に含めるなど、安全面や過度な負担にならないように配慮する。

豊かな人間関係と学びが大切にされる学校を

人間ドックについて

問　人間ドックの受検者を増やすための方策は。

答　広報やホームページでの周知に加え、公共施設にパンフレットの設置やポスター掲示も効果的と考える。健康まつりや市民まつりでも周知に努める。

ベンチによるやさしいまちづくりについて

田中　まどか

問　高齢者の外出頻度の低下は生活の質を落としかねない。政策としてまちの中やバス停にベンチを設置し、高齢者等が安心して外出できる環境整備をしてはどうか。

答　まちの活性化の一助となるが、適正な維持管理や設置する場所への配慮が課題。

問　高麗の郷や病院、障がい者施設等の近くのバス停には設置すべきと思うが市の考えは。

答　高麗の郷の前については今後調整を図る。他の施設については研究していく。

問　ベンチ設置へ市民の協力を得るため、まちづくり寄附金のメニューに加えてはどうか。

答　既存のメニューを活用するなど研究していく。

文化行政について

問　37年間、補助金と事業委託料を拠出してきた日高市文化協会の解散について総括はしたか。

答　市民文化の象徴として存続が望まれていたが、会員の高齢化などを理由に昨年5月に解散した。長きにわたり市の文化芸術活動を牽引してきた協会に感謝している。今後は協会に加盟していた団体に改めて声掛けし、市が事務局となって仮称、文化団体連合会を組織したいと考えている。

問　芸術は子どもたちの心を動かし、育む。本格的な芸術作品や芸術家に触れる機会を学校でつくるべきと思うが見解は。

答　五感で文化芸術に触れることは将来に向けて大変有意義。市内の優れた芸術家の情報を収集し紹介していきたい。

ヘルプマーク、ヘルプカードの普及について

問　人工関節を使用している方や難病の方など外見からはその障がいがわからない方が身に着けて、支援や配慮が必要なことを周囲に知らせるヘルプマークの普及が進んでいる。市では第5次障がい者計画で避難行動要支援者のためヘルプカードを作成するとしているが、作成時期と配布対象者は。

答　平成30年度以降の早い時期に作成し、避難行動要支援者に限らず何らかの援助や配慮を必要とする方に広く配る予定。

気づいてください。ヘルプのサイン